

日本鉄鋼協会記事

研究委員会

第4回委員会 開催日：11月9日。出席者：岡田委員長，ほか19名。

1. 基共研・介在物の形態制御部会完了報告
2. 日本压力容器研究会議「压力容器の信頼性」シンポジウム報告
3. 将来技術のセッション Materials Processing の動向
4. 「学生と鉄鋼」についての懇談会最終報告
5. 昭和61年度特定基礎研究会新規テーマの策定について

編集委員会

第4回編集運営委員会 開催日：11月9日。出席者：宮川委員長，ほか17名。

1. 会誌，講演大会における新分野の導入について検討経過の報告がなされた。
2. 各分科会の活動報告がなされ，欧文会誌分科会からは投稿規程と査読マニュアルについて，講演大会分科会からは第108回講演大会について，最後に出版分科会から特別報告書の出版と創立70周年誌についての報告がなされた。

第8回和文会誌分科会 開催日：11月9日。出席者：菊池幹事，ほか24名。

1. 19件の論文審査報告がなされ，掲載決定10件，照会后掲載可4件，修正依頼2件，その他3件であった。

第8回欧文会誌分科会 開催日：11月2日。出席者：大森主査，ほか18名。

1. 11件の原稿につき審査報告がなされ，掲載可1件，照会后掲載可3件，修正依頼7件であった。また，5件のNew Technologyにつき審査報告がなされ，掲載可1件，修正依頼4件であった。

2. 国内雑誌より2件のTechnical Reportを勧誘することとなった。

第5回講演大会分科会 開催日：11月16日。出席者：川上幹事，ほか23名。

1. 第108回講演大会（於：広大）報告が提出資料をもとに行われた。
2. 第111回大会討論会テーマが決定した。
3. 第109回大会からスタートする新分野の講演募集について，事務局より説明があった。

共同研究会

第89回製鋼部会 開催日：11月8～9日。開催地：川鉄・千葉。出席者：甲谷部会長，ほか118名。

1. 研究発表
 - (1) 重点テーマ「連铸におけるコストダウン技術」……6件
 - (2) 自由テーマ 13件（精錬関係 7件，連铸

関係 5件，その他 1件)

2. 特別講演「千葉製鉄所における製鋼技術の現状」川崎製鉄(株)千葉製鉄所・江本製鋼部長
3. 工場見学 川崎製鉄(株)千葉製鉄所

第75回特殊鋼部会 開催日：10月25～26日。開催地：日立金属・安来。出席者：岸田部会長，ほか95名。特別講演「工具鋼の特性におよぼす鋼質の影響」

日立金属(株)冶金研究所
奥野利夫部長

共通テーマ

- ① 取鍋へのガス，合金，およびフラックスの吹込みによる操業改善，品質向上について
- ② 特殊溶解 (VAR, ESR, VI など) の操業および品質改善

鋼板部会

第58回厚板分科会 開催日：11月8～9日。開催地：新日鉄・大分。出席者：平井主査，ほか122名。

1. 工場操業状況報告
2. グループ別討議
 - (1) スタッフグループ テーマ「HCR」，自由議題発表 5件
 - (2) 作業長グループ メインテーマ「クレーン管理の現状と対応策」
3. 工場見学 新日本製鉄(株)大分製鉄所

第41回ホットストリップ分科会 開催日：11月8～9日。開催地：新日鉄・名古屋。出席者：藤原淳二主査，ほか103名。

当分科会では，定例の操業成績の他に共通議題として「寸法・温度の管理と実態」をとり上げて，過去のデータ（昭和54年）との比較等を行つた。とりまく環境が悪化する中で寸法のばらつきの実力はほぼ従来と変わらない。（新しい設備では良い値が見られる）また自由議題では各製鉄所より1件ずつの発表を行つた。各社それぞれに精度向上に努めており参考になるものであつたが，更に努力してほしい旨藤原主査がつけ加えられた。2日目午後から，ホットストリップ工場の見学を行つたが，自社性のサイズなど強く印象づけられた。

条鋼部会

第58回線材分科会 開催日：11月8～9日。開催地：新日鉄・光。出席者：熊野主査，ほか92名。

1. 工場操業状況
2. テーマ研究
研究テーマ：「寸法精度の実態と保証体制」
3. 自由議題 発表 13件
4. 工場見学 新日鉄・光・線材工場
5. その他

鉄鋼分析部会

第 55 回鉄鋼分析部会 開催日：11月14～16日。開催地：日新・呉。出席者：川村部会長，ほか 78 名。

1. 各分科会・小委員会経過報告
2. 部会幹事会報告
3. 部会分科会の今後の運営体制について
4. 関係委員会報告
 - (1) ISO/TC 17/SC 1
 - (2) ISO/TC 102/SC 2
 - (3) 鉄鋼標準試料委員会
 - (4) その他
5. 次回部会開催予定
6. その他

なお、鉄鋼分析部会は昭和 60 年 3 月より、化学分析分科会（化学分析分科会，鋼中ガス分析分科会の合併），機器分析分科会（発光分光分析分科会，蛍光 X 線分析分科会の合併），鋼中非金属分析小委員会（同分科会の改称），および表面分析小委員会の 2 分科会 2 小委員会の新しい体制にて進めることとなった。

第 44 回発光分光分析分科会 開催日：11 月 14～16 日。開催地：日新・呉。出席者：井樋田 主査，ほか 47 名。

1. 標準試料熱処理効果調査共同実験結果のまとめについて
2. WG 活動方針の説明
3. その他

第 46 回蛍光 X 線分析分科会 開催日：11月14日。開催地：日新・呉。出席者：佐伯主査，ほか 41 名。

1. ISO ガラスビード法検討結果の報告
2. WG 体制について
3. その他

第 70 回化学分析分科会 開催日：11 月 14 日。開催地：日新・呉。出席者：針間矢主査，ほか 49 名。

1. 鉄鋼の原子吸光分析法 JIS 改正について
2. 鉄鋼中ジルコニウム定量法共同実験結果のまとめ
3. 運営体制について
4. その他

第 76 回鋼中非金属介在物分析分科会 開催日：11月14～16日。開催地：日新・呉。出席者：成田主査，ほか 19 名。

1. 鋼中酸化物の抽出分離定量法に関する研究
 - (1) 第 5 回共同実験試料についての自発検討結果の報告
 - (2) 第 5 回共同実験方案の作成
 - (3) その他
2. 鋼中硫化物抽出分離定量用標準試料の調整
 - (1) 標準値決定のための共同実験結果の報告と審議
 - (2) 試料調整状況の確認ならびに今後の進め方
 - (3) その他

第 12 回鋼中ガス分析分科会 開催日：11 月 14～16 日。開催地：日新・呉。出席者：藤野主査，ほか 39 名。

1. 窒素分析共同実験
2. 微量域窒素分析成果発表
3. 微量域酸素分析研究成果発表

4. 溶鋼水素分析研究成果発表

5. その他

設備技術部会

第 17 回電気設備分科会 開催日：11月15～16日。開催地：新日鉄・君津。出席者：中田 久也 部会長，ほか 123 名。

共通議題は「電気設備保全体制の実態調査」について専門委員会で各社にアンケートを行いまとめを行った結果を報告した。自由テーマは各社より 12 件の発表を行った。特に大形直流機の絶縁劣化更新対策（日新・周南）の発表については質問も多く各社の参考になるものと思われた。

2 日間にわたり活発な意見交換を行うとともに、君津大形工場の見学をさせていただき非常に有意義な分科会であった。

鉄鋼標準試料委員会

第 5 回常任委員会 開催日：11 月 6 日。出席者：川村委員長，ほか 15 名。

1. 標準値の決定
2. 試験・検査結果の報告
3. 製造状況確認および製造計画
4. 鉄鋼標準試料委員会発足 30 周年記念事業
5. 昭和 60 年度予算案
6. ガラスビード蛍光 X 線分析法による鉄鉱石の分析検討結果報告
7. その他

第 53 回材料研究委員会

開催日：10 月 24 日。開催地：川鉄・水島。出席者：大橋延夫委員長，ほか 13 名。

今回は研究発表 3 件「低 S 連鑄材の製造条件と材質との関連」（鋼管・阿部），「Cr-Mo 鋼の高温脆化特性」（川鉄・今中），および「鋼の液体金属ぜい化」について報告があり活発に意見交換を行った。また工場見学では厚板工場，鍛造工場，水島研究所等を詳しい説明をまじえて見学させていただきたいへん有意義な 1 日であった。

鉄鋼技術情報センター**情報検索委員会****第 6 回検索用語検討 W. G.**

開催日：10月22日。出席者：加畑委員，ほか 13 名。

1. 検索用語の検討

M11 (溶接)	……新日鉄
R00 (周辺技術)	} ……川鉄テクノロジー
R01 (計測・制御)	
R04 (管理・経営)	

2. 今後の予定

11 月 13 日に第 7 回 W. G. を開催し，保留になっている用語及び今までの問題点を検討することになった。

第 26 回幹事会 開催日：10月29日。出席者：加畑委員，ほか。

1. 昭和 59 年度後半及び昭和 60 年度活動計画

- (1) 委員会
- (2) 見学会
- (3) W. G.
- (4) IR 研究会
- (5) 講演会

図書資料委員会

第 12 回 W. G. 2 開催日: 11月1~2日. 開催地:
日本鋼管・熱海寮. 出席者: 西垣幸雄, ほか 10 名.

1. 59 年春季分索引誌 No. 8 の入力原稿作成作業

鉄鋼基礎共同研究会

第 14 回連続製造における力学的挙動部会 開催日:
10月19日. 出席者: 森部会長, ほか 28 名.

1. 研究発表 8 件
 - (a) 低静鉄圧下における鋳片バルジング挙動
 - (b) 鋳型内凝固シユルの応力解析
 - (c) クリープを考慮したバルジング解析
 - (d) 連鋳片の曲げ矯正歪に関するシミュレーション実験および解析
 - (e) 高温における破面観察および組織観察
 - (f) 非線形境界要素法の弾塑性問題, 弾/粘塑性除荷問題への応用
 - (g) 連鋳スラブの表面欠陥防止法

(h) 炭素鋼の高温脆化特性におよぼす P の影響

第 18 回融体精錬反応部会 開催日: 10月22日. 出席者: 森部会長, ほか 24 名.

1. 研究発表 計 8 件
 - (1) スラグ-溶鉄間反応の平衡論的研究 2 件
 - (2) スラグ-溶鉄間反応のプロセス工学的研究 3 件
 - (3) 転炉精錬 2 件
 - (4) 特殊フラックスによる精錬反応 1 件
2. 部会報告書編集について
3. その他

第 1 回計測材料評価委員会 開催日: 10月16日. 出席者: 岸委員長, ほか 17 名.

昭和 58 年につづいて 59 年度の科学技術庁予算の内示があり今年度の調査研究を行うこととなった. 59 年度第 1 回の委員会では前年度の経過報告, 59 年度の委員会の計画案の検討を主体に行つた. 今年度は委員会を 4 つのグループ (Fatigue, Corrosion, Temper Embrittlement, および Creep) に分け, また文献調査委員会を別に設けることとした. 全体委員会は 4 回開催することとし, 今年度中に当研究委員会の最終まとめを行う予定である.

新刊紹介

特別報告書 No. 37

「原燃料からみたわが国製鉄技術の歴史」

発行のお知らせ

本会鉄鋼科学・技術史委員会製鉄ワーキンググループでかねてより標記報告書の編集をすすめておりましたがこの程発行されましたのでお知らせいたします。

本書は第 1 部はわが国における製鉄技術全体の発展過程を伝統技術に遡つてたどり, 原燃料とその技術の役割をあきらかにすることを主旨とする通史である. 第 2 部では有力な鉄鉱石資源だけでなく強粘結炭資源をもたないわが国の第 2 次大戦前および後における原燃料政策の推移, および戦後には特に大きな役割を演じるにいたつた海上輸送の問題を論じている. 第 3 部はわが国における原料事前処理技術の発展過程を, その世界における発展過程との関連のもとに, 主として技術思想の観点に立つて述べるものであり, 第 4 部はわが国における原料炭・コークスに関する技術と理論の変遷をほぼ全面的に論じるものである. また試論は第 5 部として, 本格的な製鉄理論史のための一つの礎石となることを期待して, 高炉製鉄理論の発展の経過を略述したものである.

以上本書は製鉄技術者を初め, 製鉄技術とその重要な規定要因としての原燃料をめぐる歴史的諸問題に多様な関心をもたれる方々に是非ご利用下さいませようご案内いたします。

1. 書名 「原燃料からみたわが国製鉄技術の歴史」
2. 価格 会員 6,000 円(送料別), 非会員 8,000 円(送料別)
(B5 版, 本クロス上製本, 434 ページ)
3. 申込方法 現金書留, 銀行振込, 郵便振替 (東京 7-193) でお申し込み下さい.
4. 申込先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4
日本鉄鋼協会庶務課 Tel. 03-279-6021